

- 管内 オホーツク管内
- 分類 避難訓練 防災教室 防災に関する授業 その他（ ）
- 教育課程 教科（ ）科 道徳 総合的な学習の時間 特別活動
- 校種 小学校（低） 小学校（中） 小学校（高） 中学校 高等学校
- 取組のポイント

- 消防、警察、地方気象台と連携を図りながら、地震及び津波を想定した津波対応避難訓練（全校児童が天都山まで避難）を行っている。

取組の実際

ねらい

- 大地震・大津波などの非常災害が発生したとき、児童の安全を確実に確保し、生命遵守を第一に考えた緊急時避難を体験する。
- 連絡や指示を集中して聞き、緊急時避難の要領を体得する。
- 緊急時避難訓練を通して、日常生活における大災害に対する認識を深める。

内容

1 地震・津波対応の避難方法・経路・場所について

網走市立西小学校は、道（総務部危機対策局）が作成した「津波浸水予測図」の浸水範囲内にあることから、次の通り避難経路や避難場所を確定し、児童の生命を守ることに努めている。

- (1) A級対応（即時避難）
情報レベル：大津波警報時及び2メートル以上の津波警報時
避難場所：本校から国道（歩道橋）を渡り、天都山へ避難
- (2) B級対応（校舎内避難）
情報レベル：津波警報時及び津波注意報発令時（2メートル以下）
避難場所：本校の校舎3階に避難
- (3) C級対応（地震のみ対応）
情報レベル：津波なし地震時
避難場所：本校のグラウンドへ避難

2 地震・津波対応の避難訓練の実施内容

- (1) 訓練地震発生
 - ・揺れが収まるまで、頭部を座布団や手で保護しながら、机の下に避難する。
- (2) 指示連絡・グラウンド避難
 - ・学級ごとに2列で整列し、グラウンドに避難する。
- (3) 大津波警報発令・確認
 - ・緊急避難開始の指示をする。
- (4) 校外避難開始
 - ・安全に留意し、天都山への避難を開始する。



【天都山に避難した児童の様子】

成果と課題

- 大地震・大津波を想定した訓練を実施することで、全教職員及び全児童の防災意識が高まり、緊急時避難の方法等を身に付けることができた。
- 避難経路を一経路しか確保していないため、大雨等が発生した場合に避難ができなくなる恐れがあり、避難経路について再検討する必要がある。